



共生の時代

'10
9月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



デイサービス施設
「ゆるりの家・アクア」看護師

よし だ ゆ き
吉田 結貴 さん

プロフィール
熊本県八代市出身。熊本市在住。夫、長男(中3)、二男(小4)、長女(小2)の5人家族。看護師、イラストレーターとして活躍する。グリーンコープ生協くまもと組合員

「会った人には笑ってもらう」

25 歳で結婚。就職先を探すうち看護師の仕事に出会った。ところが看護師は医療行為ができない。病を抱えた人にもっと深く関わりたいと看護師を志す。看護学校で2年間奮闘。卒業し、長男をみごもった直後、膠原病の一つ「全身性エリテマトーデス(SLE)」を発症する。それからは生活のベースにこの難病が横たわる。倦怠感、常に関節が痛み、たくさん蝉が鳴いているような耳鳴りがする。

だが、そんなことにはへこたれない。2年前SLEが腎臓に炎症を起こし入院したときでさえ、パンチのきいたイラストで「ナースのSEKIRARA A 闘病日記」を描いた。描かずにはいられない。痛苦に満ちた病態でも「この病気が若くて色白で、美人に多い」とか、「倒れるときは前のめり」など随所にユーモアが光る。メデイカル系求人情報誌に掲載され、SLE仲間を励まし、難病への理解を深めた。「会った人には笑ってもらう」というのが自分の中の決まり事。もちろんここでも会話や体操、レクレーションを通して笑いを引き出すことを忘れて来所者の気持ちを十分に受け止める。「よか人はっかり」のスタッフに見守られ、来所者の表情は柔らかくなっていく。また自身もここで心の洗濯をする。自分磨きの場という。それほど好きな場所だから、写真撮影も「この看板の横で」とこだわった。

最大の癒しはイラストを描く時間。作業机にもなるダイニングテーブルの周りで3人の子どもたちも小さな頃からお絵かきをしてきた。その子どもたちが最近、吉田さんが熊本日日新聞に連載中の4コママンガ「すすめ!! かあさん丸」に的確なアドバイスしてくれるまでになった。何だか頼もしくて、それがとても嬉しい。

秋の強化月間 はじまる



Contents

ホームレス問題を考える	18
新しい生活へ向かって少しずつ準備をはじめています	2
うちのメーカー・うちの生産者 [®]	
福留ハム(株)熊本工場 こだわりのハム・ソーセージ類	3
2010年度自生GMナタネ汚染調査報告会 COP10/MOP5まで100日シンポジウム	
遺伝子組み換え作物を世界中からなくしていこう	4・5
2010年夏・平和	
グリーンコープ共生・平和長崎自転車隊 2010年度第2回平和学習会 「ピョンファ・エ・ダリ韓国への旅」報告	6・7
2010年度秋の取り組み学習会	
グリーンコープの食べもの運動の進捗 グリーンコープの4R運動	8・9
第15回青少年ネグロス体験ツアー報告	
ネグロスでの出会いが自分を成長させてくれた	10
組合員の思いを綾豚会に	
口蹄疫による困難を共に乗り越えよう!	11

副理事長4年目の私は、今年で組合員活動を卒業する。母親として、消費者として考える機会を得、たくさん知る。を経験し、自分の意思を持ち、少しは人としても成長することもできたと思う。

送 信

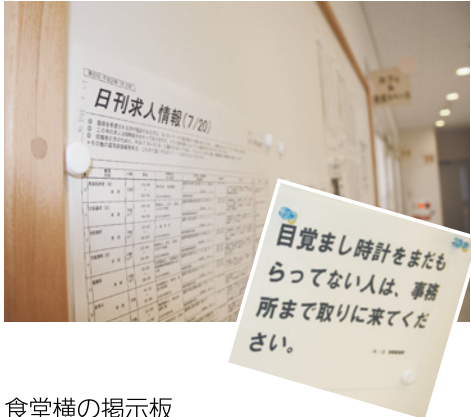
んなことが全部ふつとぶこ
とが時々ある。たとえば、
口蹄疫で苦しむ生産者を思
いやり、支えようとする組
合員の姿にふれた時。グ
リーンコープが大好きだから
知ったことを伝えていき
たいと思う若い組合員の言葉
を聞いた時など。
めぐりあわせて、そのイ
スに座った人には充分に
活動を楽しんで欲しい。私
も次年度はまた新たな楽し
みを見つけているはず。
グリーンコープ生協くまもと副理事長
小松 実加

新しい生活へ向かって 少しずつ準備をはじめていきます

—抱樸館福岡 開所から3カ月—

ホームレス問題を考える 18

グリーンコープのホームレス支援の拠点「抱樸館福岡」が5月1日に開所して、3カ月が過ぎました。これまでの利用者は53人。家族との絆を絶たれ、厳しい現実に向きあってきた人々が、新しい生活をめざすため少しずつ動きはじめています。利用者スタッフに話を聞きました。



食堂横の掲示版
日々更新される求人情報やさまざまなお知らせ。
利用者にとってどれも大事な情報だ

多くの団体が視察に訪れ、行政やマスコミの注目を集めている抱樸館福岡。館長の青木さんをはじめスタッフは、その対応に奔走しながらも細やかなケアと将来を見据えた支援のため利用者に向きあう日々を送っている。

食堂に面した日当たりのよいテラスにはさまざまな人から提供された就職活動用のスーツがずらりと虫干しされ、出番を待っている。昼食を終えた利用者たちが集まり、これからはじまる新しい生活の話をする。そこへスタッフも加わり、名前を呼びあい冗談を交わす。家族のような温かい視点で利用者に向きあっていくスタッフの姿勢が、自立に向けてのサポートの柱になる。

抱樸館福岡で人とのつながりをもっと一度実感しながら、利用者新しいスタートを切った。

みんなの声

若い人も一緒に、励ましあっていきたい

3年くらい路上にいました。広島や大阪でも働いた。日雇いの仕事があるうちはまだよかったけど、その仕事もなくなったらもうどうにもならんようになって、毎日もう限界だと思って過ごしてきました。

北九州におった時、勝山公園の炊き出しに行きました。そこで奥田さん(NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長)に会いました。北九州ではどうにも仕事が見つからんし、仲間から「博多に行ったら仕事がある」と聞いて福岡市に来ました。でも、なかった。おにぎりとか食べものを探すが大変でした。おにぎり3個ももらうために春日市まで自転車でいった時、チリチリが配られて、それに北九州で会った奥田さんが載ってたからびっくりしました。それでここに来ようと思いました。

ここで、三食食べさせてもらって、やっとな憲法25条にある「健康で文化的な生活」っていうのを実感しています。幸せですよ。

私はもうこんな年やけど、ここにいる若い人は、頑張らいたいもたくさん経験しているから、なんとか頑張らしてほしい。同じ境遇におったから、気持ちが分かるんです。

ここを出ることになったら、それはそれで覚悟して暮らしていきます。昔のことを考えると後悔もあるけど、そんなこと考えてもどうにもならん。割り切って前を見ていくしかありません。

みんなに会いに？ もちろん来ますよ。ここは自分にとってふるさとみたいなもんですからね。

～Yさん(67歳)～

新しい生活をめざして資格を取ります

まさか自分がホームレスになるなんて全然思っていませんでした。路上に出たのは3週間くらいです。短期の仕事が続いてたけど、やがてそれもなくなりその後、派遣会社から携帯電話の修理の仕事を紹介されました。でも3カ月くらいしたら派遣切りに。長く勤めている人は技術からと、すぐに解雇されました。

しばらくはインターネットカフェに泊まり、その時はまだ「なんとかなる」と楽観していました。新しい会社を見つけて「採用についての関係書類を送ります」と言われても、送る先住所がないから自分で「もういいです」と言わなきゃいけない。それがつかかった。途方に暮れていたら、声をかけてくれた人がいて、その人のすすめで区役所に相談に行ったら抱樸館のことを知りました。ここでなんとか立ち直りたいと思ったんです。

人の世話をするのが好きで、高校生の頃ボランティア活動で高齢者施設を訪ね、職員に「あなたが来るといつも笑った。それで僕は介護の仕事しようと思いました。」

明日から福岡市の「ホームヘルパー2級講座」を受けに行きます。抱樸館に来なかつたら、自分がこんな講座を受けられるのも知らなかつたと思います。暑いけど自転車で40分くらいかけて通います。資格が取れるのが何よりうれしい。せっかくもらったチャンスですから。

～Sさん(41歳)～



競争社会や格差社会といった現在の社会構造に疑問を抱いてきました。昨年、勝山公園(北九州市)の炊き出しに参加し、年末の厳しい寒さの中スタッフを温かいながら、なぜか心は温



相談員 小畑 孝仁さん

「ここ」の荷物は何だの?」とか、「支援のこと知ってるかな」とか。逆に考えると今まで気付かず通り過ぎていたということ。相談員として相手を信じ、伝えたいことは山ほどありますが、いままさに分かっていることが、5年後10年後に分かってもらえたらうれしいと思っています。言葉で表されることだけでなく、利用者みなさんの気持ちを察することができるといいと思います。



相談員 木尾 春菜さん



相談員 西川 寿美礼さん

これまで、ホームレスの問題と自分を結びつけることなんて全然できなかった。でも今は、こんなに身近な問題なのに、と思えます。どこの街に出ても、やっぱり路上生活者のようすが気になります。

「この荷物はだれの?」とか、「支援のこと知ってるかな」とか。逆に考えると今まで気付かず通り過ぎていたということ。相談員として相手を信じ、伝えたいことは山ほどありますが、いままさに分かっていることが、5年後10年後に分かってもらえたらうれしいと思っています。言葉で表されることだけでなく、利用者みなさんの気持ちを察することができるといいと思います。

スタッフ紹介

うちのメーカー

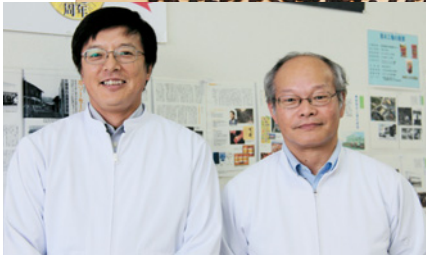
100

熊本県菊池市
福留ハム(株) 熊本工場

うちの生産者



こだわりの ハムソーセージ類



砂田誠工場長・宮崎幹三郎副工場長

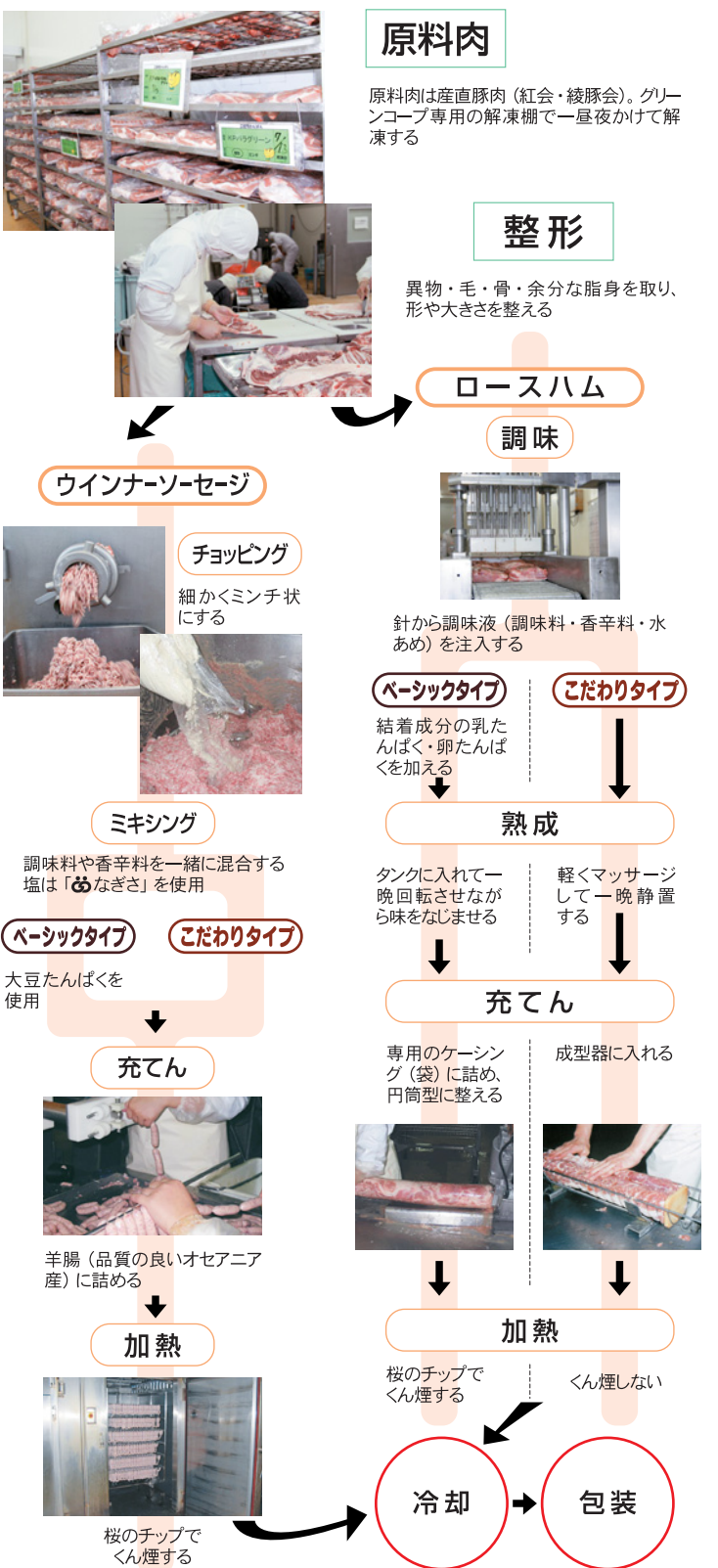
一般的に、ハムやソーセージは、輸入肉が原料で、安全性に疑いのある添加物(亜硝酸ナトリウムや重合リン酸塩等)が使われています。

グリーンコープのハム・ソーセージの原料肉はグリーンコープの産直豚100%。そして、 unnecessary 添加物は使わずに作られています。

福留ハム(株)熊本工場を取材し、砂田誠工場長と宮崎幹三郎副工場長に話を聞きました。

こだわりのハム・ソーセージがみんなで利用価格となります。カタログGREEN 25号(8/30から配布)〜39号(12/6から配布)

ハム・ソーセージ製造工程



確かな技術

福留ハムは、1919年に精肉の卸問屋からスタートし、1948年に広島市にハム製造所を開設。現在の熊本工場は1999年、小倉工場のハム・ソーセージ部門と熊本工場が統合してできた。工場のある七城町は、近くに菊池水源など名水があり、食品作りには最適な地だ。

熊本工場は、2006年に厚生労働省の総合衛生管理製造過程(食品の危険要因を除去できる工程を常時管理・記録)の承認を受け、製品の安全性を保つシステムを確立。同年ISO14001(環境マネジメントシステム)に登録。環境にやさしい工場でもある。また、「自分たちの技術力を確かめるために、ハム・ソーセージ作りの本場ドイツの国際品質競技会にも2005年から出品し、金賞など多くのメダルを獲得しています。」と技術畑出身の砂田さんは胸を張る。グリーンコープのハム・ソーセージ作りにもその技術力が生かされている。

心を込めた食べもの作り

グリーンコープとの関係は二十数年前、添加物を使わないハム・ソーセージを作れないかというグリーンコープの前身生協からの相談にはじまった。当時は発色剤や結着剤などの食品添加物を使わないということとは考えられない時代。しかし、福留ハムは食べもの作りに携わる企業として、「人の心に根ざす仕事」などを企業理念に謳っている。そうした意味でも、何よりも生命を大切に考える生協の依頼を新しい分野への挑戦として受け止め、安心・安全なハム・ソーセージ作りに試行錯誤を重ねてきた。2004年、グリーンコープは、組合員の要望に応じてハム・ソーセージをリニューアルすることにし、「安心・安全を大前提に、おいしさと価格の追求をテーマにメーカーのコンペを行った。当時福留ハムでリニューアルを担当した砂田さんは、「一年以上かけて、何十回も試作を繰り返しました。ともかく最良の品質の物を作ることに賭けました。コンペで選ばれた時は本当にうれしかった」と当時の話を語る。それから、「こだわりのタイプ」と「ベーシックタイプ」が配置され、組合員は自分の好みでハムやベーコン、ウインナーソーセージを選べるようになった。

「原料肉の品質や添加物の考え方など、グリーンコープの製品は食べもの作りの原点だと思います。」添加物を使いませんから、工場のラインは一般品と混ぜられないようにグリーンコープの製品は朝一番で製造を行います。洗浄や衛生管理の徹底など、一瞬も気を抜かない作業に徹しています。「組合員さんとの交流会や学習会には積極的に参加しています。組合員さんの意見や要望はとても勉強になります」と宮崎さんは、グリーンコープと共にしている食べもの作りの貴重さを話す。

ハム・ソーセージのこだわり

グリーンコープのハム・ソーセージの大きな特長は、飼料や飼育方法にこだわった紅会と綾豚会の産直豚を原料にしているということだ。この原料肉のよさが、添加物を使用せずに、旨みのある質のよいハムやソーセージを作ることが可能にしている。もう一つの大きな特長は、一般的に使われている亜硝酸ナトリウム(見た目をよくするための発色剤)をよくするための結着剤を使用せず、グルタミン酸ナトリウムなどのアミノ酸系調味料も使っていないことだ。

グリーンコープのハム・ソーセージの「こだわりのタイプ」は結着成分を入れない、より肉の旨みを生かしている。「ベーシックタイプ」は、卵たんぱく・乳たんぱく・大豆たんぱくを結着成分として使用し、肉の風味を抑えたなじみやすい味と食感にしているのが特長だ。「原料肉や添加物など、ここまでこだわったものは、ほんとうに少ないと思います」と砂田さんは力説する。「今回のみんなで利用キャンペーンには、メーカーとしても協力させてもらっています。一人でも多くの組合員さんに利用してもらって、グリーンコープのハムやソーセージのよさを分かってもらいたい」と宮崎さん。「これからも組合員さんの声を大切にしながらい」と砂田さんは話を結んだ。

遺伝子組み換え作物を世界中からなくしていきこう

2010年度 自生GMナタネ汚染調査報告会

グリーンコープはこれまで遺伝子組み換え(GM)への反対を貫き、同じ立場をとる全国の団体と協力して、反対運動を続けています。

その一つが、自生GMナタネの汚染調査活動です。2010年度の調査報告会が、7月5日、福岡市で開催されました。

また、今年10月、「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」、「カルタヘナ議定書第5回締約国会議(MOP5)」が、名古屋市で開催されます。これらの国際会議の日本での開催に先駆けて、昨年5月に「食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク」(以下、MOP5市民ネット)「が立ち上がりました。これを契機に、GM作物の環境への影響や、食品としての安全性に対する市民の関心が高まり、食品表示やカルタヘナ国内法改正につながることを期待して活動をすすめています。

7月3日、COP10、MOP5に合わせて開催されるNGO集会への気運を高めるための「COP10/MOP5まで100日シンポジウム」が名古屋市で開催されました。

二つの取り組みについて、報告します。



GMナタネ抜き取り隊。コンクリートのすき間等にはびこるGMナタネを根元から抜き取るのは根気のいる作業だ



日本の食用油の原料の80%以上が、カナダから輸入されたGMナタネです。輸入港周辺を中心に、こぼれ落ちた種子からGMナタネが自生し繁殖している現状に歯止めをかけたいと、グリーンコープでは2005年から「遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン」を中心し各地の団体と共に調査を行ってきました。この取り組みは国際的にも拡がり、ヨーロッパや韓国でも調査ははじまっています。

2010年度自生GMナタネ汚染調査報告会(1/3)

3人参加)では、ふくおかとさかから活動の報告がありました。また、天笠啓祐さんの講演で「遺伝子組み換え作物の環境汚染」について学びました。

2010年度の調査活動は13単協が取り組み、グリーンコープエリア256カ所を実施しました。そのうち1次検査のスクリーニング実験で陽性反応が出たのは48地点。2009年度の37地点、2008年度の24地点と比較しても、年々汚染が拡がっていることが確認できます。



安全のため、通行中の車輛から目立つように、スタッフは看板を背負って同行する

ふくおかの報告

ふくおかでは、過去5年間自生GMナタネの調査活動を行ってきました。これまでの調査から、福岡市の箱崎埠頭でのGMナタネ自生を確信しました。年々汚染は拡がっています。

このような状況を踏まえ、これ以上拡がらないように2009年10月「GMナタネ抜き取り隊」を立ち上げ、自生しているナタネを根こそぎ抜き取ってしまおうという取り組みをはじめました。11月に行った第1回抜き取り隊では、輸入されたナタネが運び込まれる箱崎埠頭の精油工場付近を中心に、約1400本を抜き取りました。1年草のはずのナタネが多年草化して茎が木質化している異常なものも見られました。また、ナタネの種子が大量にこぼれ

さかの報告

佐賀県には高速道路の大きな分岐点があり、多くの大型トラックが行き交っています。2010年3月の調査では、高速道路のインターチェンジ付近や国道沿いを中心に、東部3カ所、西部2カ所の合計5カ所で調査しました。

調査には地域委員が取り組んでいますが、昨年から地域組合員にも呼びかけに参加してもらっています。今年は3家族の参加があり、GM問題を身近に感じるきっかけになったと思います。

西部では、伊万里・有田地区の地区委員全員が初めて参加。アブラナとナタネの区別から、一つひとつ確認しながらの調査となりました。

2010年4月に第2回の抜き取りを行いました。秋に種子が落ちていた地点では、たくさんナタネが発芽していました。約1800本を抜き取り、このうち49検体を検査、37検体から陽性反応が出ました。GMナタネを根絶させるためには、一人でも多くの参加で、市民運動として継続していく必要性があります。また、メーカーや行政へ、GMナタネ種子拡散防止のための要望書の提出等も、継続して行っていきます。

調査場所の検討、ナタネ探しは慎重に行いました。これまでさかでは陽性のナタネは見つかっていませんでしたが、もしかしらなければ、そうかもしれないという緊張感を持って臨みました。幸い今年もすべて陰性という結果でした。来年もまた陽性が出ないことを願って、GMナタネを拡げないための監視を続けていきます。

未来へつなごう いのちを育む食と農

COP10/MOP5まで 100日シンポジウム

農業の現場から見た 生物多様性について

石津 文雄 さん (滋賀県 針江元気米生産者)



石津さんの圃場では有機栽培に変えたことで多くの希少生物が甦ったようすが報告された。



各報告を受けて会場から出された質問に答える形で、シンポジウムがすすめられた

2010年10月11日～29日、名古屋市でCOP10/MOP5が日本ではじめて開催されます。

これに先駆け「COP10/MOP5まで100日シンポジウム」が、2010年7月3日名古屋市で「未来へつなごう いのちを育む食と農」をテーマにMOP5市民ネット、生物多様性条約市民ネットワーク(CBD市民ネット)の主催で開催されました。参加は約300人(グリーンコープから18人参加)。集会のようすと報告の要旨について掲載します。

カルタヘナ議定書『責任と修復』

真下 俊樹 さん (MOP5市民ネット)

カルタヘナ議定書では、遺伝子組み換え作物などにより生物多様性や農作物などに被害が生じた時に、その損害について「責任と修復」を義務付けたが、日本政府やEUの反対で実質的な効力がなかった。

MOP5では「責任と修復」を具体的にどのように確立するか検討され、被害について国や企業がどのように補償するかのルールを決めることになる。法的拘束力を持った国際制度を作り、生物多様性への損害について責任を明らかにしていくことが必要だ。

予防原則に基づいたリスク管理、汚染者負担の原則等を重視した市民提案の草案作りもすすめられている。COP10/MOP5に向けて目標を定め、日本の市民として日本政府に要求を伝え、世界のNGOやアフリカ諸国など同じ主張を持つ政府代表と連携することで運動を展開することが大切だ。

GMナタネ自生の現状と問題点

河田 昌東 さん

(遺伝子組み換え食品を考える中部の会)

GMナタネ自生の調査をはじめ6年経過する中で、自生GMナタネの原因がナタネ輸入港から搾油工場までの輸送中の「こぼれ落ち」だけでなく、食用にできなくなった「事故ナタネ」の処理工場、家畜飼料工場などへの輸送中の「こぼれ落ち」にもあることが分かってきた。輸入港周辺だけでなく内陸部でも汚染が広がっていることになり、1996年にGMナタネ輸入を認可した政府の責任は重い。自生したGMナタネは交雑しながら世代交代し、最近では野生植物の遺伝子を汚染しているというこれまで想定しなかった状況がある。GM汚染の問題についてCOP10/MOP5の場での真摯な議論が期待される。

国際会議に向けて一般メディアでは「生物多様性」という言葉だけが強調して取り上げられている。そんな中、生物多様性につながる食への影響も農業をGM技術から守り、未来につなぐために何ができるのかを考へることが大切であり、COP10/MOP5がなぜ重要なのかについて考へる集会となった。

天笠啓祐さんは「COPやMOPは毎回NGOが大事な役割を果たす国際会議。情報を周りに人に拡げることでも市民として盛り上げよう」とアピールした。

各専門家の報告に加え、シンポジウム「生物多様性と遺伝子組み換えについて考へる」を行い、会場からの質問に答える形でさらに内容を深めた。また「COP10/MOP5に期待すること」として国際会議にあわせた市民提案を準備しているCBD市民ネットの各作業部会からの報告があった。また「COP10/MOP5に対する市民からのメッセージ」として、全国の生協や消費者グループからそれぞれのアピールがあった。

遺伝子組み換え(GM)作物の環境汚染

GM作物は 世界の農地の10%に！



天笠 啓祐 さん
ジャーナリスト。遺伝子組み換え食品に関するキャンペーン代表、市民バイオテクノロジー情報室代表

GM作物の作付面積は年々増大し、現在世界の農地の約10%にまで拡大している。食用としては、アメリカを筆頭に、アルゼンチン、カナダ、ブラジルなど、北南米の国々が大半を栽培している。アメリカは食料戦略として、政府と種子会社モンサントが連携して世界中の国々にGM作物の種子の売り込みをしている。現在の主なターゲットはアフリカ諸国。途上国では多国籍企業による農地の買収もすすめられている。その国の人々にとって生きる糧である食料を外国に奪われていることになる。

現在出回っているGM作物は、主に、大豆、トウモロコシ、ナタネなど。それらの自給率が極端に低い日本は、世界一の消費国となっている。

生物多様性と食の安全を奪ってきたGM作物

GM作物には、除草剤耐性作物、殺虫性作物と、二つの性質を併せもつ作物がある。除草剤耐性作物の生産により、大量の除草剤が散布されたため、

殺虫性作物の継続的な栽培により耐性害虫が発生し拡がったため、農薬の使用量が増加している。また、殺虫性作物により減少した害虫に代わり新たな害虫が発生、収量の減少が報告されている。殺虫性作物は昆虫の寿命に影響を与え、また、収穫後の綿畑で飼育した羊や山羊の大量死や、飼料としてGMトウモロコシを与えた豚の繁殖率が低下するなど、家畜の健康被害も出ている。リスク評価等を行って

いる全米研究評議会では、GM作物の有効性が失われつつあると警告している。

GM作物の栽培は、他にもさまざまな問題を引き起こしている。栽培の拡がりに伴い、原生種や野生植物、在来品種を駆逐し、それらが危機に瀕する事態になっている。また、大豆畑やバイオ燃料用のプランテーションにより熱帯雨林が侵食されている。少数企業による種子の寡占化が進行していることも大きな問題だ。モンサント社は世界の種子全体の20%、大豆においては70%をも支配している。

また、食品としての安全性も脅かされ、人体への影響も懸念されている。米国環境医学会によると、免疫システムへの悪影響、生殖や出産への影響、解毒臓器の傷害が危惧されている。GMナタネ種子が搬送中に飛散し自生、繁殖しているという実態も明らかになった。同じアブラナ科のプロッコリーやキャベツなどと交雑し、GMの野菜が知らないうちに食卓にのぼる可能性も生まれている。

国際的規制の動きと 日本政府の動向

GM作物を規制するものとして、環境への影響を抑えるために国際的に定められたのが「カルタヘナ議定書」だ。GM生物や細胞融合生物から生物多様性を守ることを目的とし、予防原則で取り組むこと、国際間の移動を規制することなどを確認している。しかし、アメリカなどGM作物の輸出国は加盟していない。

今年のMOP5の最大の争点は、「損害発生への責任と修復について」である。前回ドイツのボンで開かれたMOP4では、日本政府はこの点についてアメリカや多国籍企業の代弁者のような立場をとり反対、決定を先送りさせた。開催国となるMOP5では議長としての責任もあり、その動向が注目される。

また日本では、カルタヘナ議定書に基づいて「カルタヘナ国内法」が2004年に施行された。しかしその内容は、食品の安全性は対象外とする、生物多様性評価の対象から農作物や昆虫・鳥といった動物を排除するなど、カルタヘナ議定書の目的とはマッチしていないことから、MOP5での改正が求められる。

※ジャガイモとトマトの細胞種である「ポマト」(実用化されていない)のように、2個以上の細胞が合体して一個の細胞になった生物



単協からの取り組み報告に聞き入る組合員

」を誓い「平和」を願って、走り抜いた！

E・平和長崎自転車隊
第23回共生・平和自転車隊

8月8日、9日の2日間、柳川を出発した子どもたち（銀輪隊7班56人、自転車隊16班106人）は、「不戦」を掲げ、長崎をめざしました。今年も真夏の空の下、子どもたちが元気いっぱいペダルをこぐ姿に、応援する組合員やスタッフだけでなく、沿道の人々からもたくさん温かい言葉がかけられました。

8月9日午前11時2分、参加者全員で黙祷を捧げ、不戦の誓いを新たにしました。

つどい挨拶

ープ共同体代表理事
田中 裕子

5の応援に励まされて
りゼッケンを背に走る
ると、グリーンコー
っていると胸が
なく一見平和な国の
さんの人が自ら生命
に絶ちません。平和を
持ちの中にこそある
の中で感じた平和の大
支えられてこそ人は
に集う一人ひとりが
いくことで、真に平和
この平和の取り組み
より感謝します。

ール

いる国があれば言いたい。「戦
てしまえば？」。戦争をし
もならない。人間の生命や
失うだけ。僕は戦争で血を
をつくりたい。生き物のす
住める世界になるといいな
器は絶対いらない!!

生協みやざき 大山 博司 (中1)

6回目です。年長の時はち
でもきつかったけど、一生
た。千羽鶴を、毎年戦争が
って折っています。中学生
転車隊に行きます。

5の家 永尾 沙利奈 (小5)

転車隊は2年生でした。今
ときつさは変わりません。
車隊にこれからも参加した
原爆にあった人々の苦し
り、伝えていくことが必
うです。

5の家 栗林 彩季 (小6)



2分、サイレンとと
祷。65年前犠牲に
人々の冥福を祈った

への祈りを込めて。
員が心を入れて折つ
羽鶴を奉納した



七浦小を出発してすぐ海沿いの美しい風景の中を再び走り出す。でもキツイ上り坂!



朝日の中、大川橋を一行で
走る



朝早いけど、みんな元気に出発!
「行ってらっしゃ〜い!」



グリーンコープ生協さがとグリーンコープ生協(長崎)の組合員さんたちが冷たい牛乳で応援に。「生き返る〜!」

出発にあたって

第二次世界大戦が終わり今年で65年になります。この戦争では人類史上初めて広島と長崎に原子爆弾が投下されました。大量の人間を瞬間のうちに殺戮し、その後も多くの人間を苦しめているのが原子爆弾です。戦争は人間が人間を殺すことです。戦争は、絶対に否定しなければなりません。改めて、戦争を絶対に否定することを確認したいと思います。

戦争は、決して他人事ではありません。私たちの「心」が戦争を起こします。私たち人間は一人では生きていけないのに、自分だけのことを考えたり、他人を差別する心が戦争につながります。生命の尊さ、平和の大切さ、幸せを感じなくなることが私たちを戦争へと導きます。戦争を否定し、生命、平和、幸せを守るために大切なことは、自分を大切に、自分と同じように他人を思いやって大切に、みんなで助けあうことです。これからますます、人間が生きていくことが大変な社会状況になっていくはずですが、貧富の差が広がり、食料や資源が足りなくなる時代が到来します。人間と人間が助けあって生きていくことこそが平和への実践であることを確認したいと思います。

一人ひとりが一生懸命に走り、一緒に走る仲間を思いやり、気遣い、助けあいながら走ります。家族や多くの仲間が沿道から応援して支えます。今日と明日、一生懸命に頑張る自分、仲間を気遣って助けあう自分に感動し、助けてくれる仲間や応援してくれる家族や仲間感謝します。自分一人ではできないことも助けあうからできることを実感するはず。人間と人間が助けあうことの素晴らしさを実感し、「戦争は絶対に反対」「生命と平和が絶対に大切であり絶対に守る」「人を殺すことはいけない」と強く思いながら、多くの人に発信しながら、柳川から長崎まで自転車で走ります。感じたことを「心の錨」にして、今まで以上に「平和」を大切にして生きていくスタートにしましょう。

生活協同組合連合会グリーンコープ連合専務理事 片岡 宏明



長崎駅前。市電の線路を3列で横断



背中に「不戦」のゼッケンをつけて一心に走る



一番の難所「日見峠」。ここを越えたら、あと少し!

「不戦」

2010年
夏・平和

グリーンコープ共生
第18回共生・平和銀輪隊



平和の
グリーンコープ

暑い中でしたが、たくさんの人たちが完成することができました。「不戦」の列を後ろから見つめながら走行して、平和の取り組みが形としてつながり、熱くなりました。今、日本は、戦争にようにも思えます。しかし、毎年たくを絶ち、人が人を傷つける事件が後を願う気持ちも、争いの芽も同じの気持ちで、この2日間の経験の切さ、生命の大切さ、たくさんの人に生きていけること。そのことを、ここに留めて明日からの日常を生きていける日本をつくってほしいと思います。を無事に終えることができたことを心

平和へのアピ



戦争をしてし争なんかやめても何の得にも自然の生命を流さない世界を築いていく。核兵器をなくして平和な世界をつくる。グリーンコープ代表



自転車隊はよつとの距離懸命こぎまじないことを祈る。自転車隊代表 無名舎一



初めての自転車でも夏の暑さそれでも自転車をこぎたいと思います。みや悲しみを言葉にできない。自転車隊代表 無名舎一



▲11時にも黙った
▲平和組合員たち

日本の朝鮮植民地支配の性格

「文化」と「民族」の観点

日本による韓国併合から100年となる今年、日本の朝鮮支配について歴史的に振り返る機会が多い。「日本人が何をしていたか？」を追究することの重要性が説かれているが、複雑な植民地支配の性格を「文化」と「民族」という観点から考えるとき、あわせて朝鮮（人）からの視点も必要である。

1910年韓国併合以後、日本は朝鮮の民族運動を徹底的に弾圧した。「国語」として日本語を強要し、組織的な文化運動が展開できないように厳しく規制した。そのため支配への反発が増大していき、1919年に三・一独立運動が起こった。そこでそれ以後、日本は警察力の増強や治安維持法の適用など、監視の強化と引き換えに、朝鮮人の言論や集会などの規制を緩和する。これにより民族運動・社会運動が盛んに展開された。1930年代前半まではこのような背景で民族のアイデンティティを強調する朝鮮人の文化運動が活発になった。一方で、日本は朝鮮（人）の文化を管理

しようとし、双方の間には緊張関係が生じた。例えば、併合当初より日本は日本人と朝鮮人が「同族」であるという、併合を正当化する歴史観を打ち出し、朝鮮の歴史を管理しようとしたが、朝鮮人の民族意識を刺激し、民族主義史学の研究がすすんで、そのような管理された歴史に対抗する歴史観が強く主張された。また、さまざまな文化運動がときに支配者側の用意したツールによらねばならず、朝鮮知識人の間では常にジレンマがつきまとった。

1937年中戦以降には、あらゆる面での日本化政策（皇民化政策）が強要された。朝鮮語は実質的に廃止され、戦局の拡大に伴い兵力や労働力資源として朝鮮人は動員され、身も心も日本人になることが強いられた。差別的、暴力的に対日協力的な文化活動が全体化していき、朝鮮の文化人に「朝鮮人の生きの道は朝鮮人であることを捨てること」と言わせるほどの状況となった。対日協力と民族意識とのほろまで朝鮮知識人は大きな葛藤を抱え、屈折した民族主義を生んだ。朝鮮への植民地支配は収奪や抹殺という言葉だけでは語り尽くせない、苛酷で深刻な状況へと朝鮮人を追い込んだのである。

2010年7月7日
福岡市
参加者105人

第14回ピョンファ・エ・ダリ(平和の橋)韓国への旅

7/25 ~ 7/27

平和への架け橋と訳される「ピョンファ・エ・ダリ韓国への旅」に参加しました。まず「独立記念館」を訪れました。ここは、建設資金を韓国の国民に呼びかけた募金によって建設された歴史記念館です。韓国の歴史の中で、日本軍によって武力で制圧され、さまざまな侵略行為など、韓国人の苦難の歴史が展示されています。そして日本帝国主義の侵略に抵抗した独立運動「三・一独立運動」の歴史を知ることができました。若い女性通訳の方が「お互いの歴史を知りましょう。そして仲良くしましょう。歴史を知らないと日本の人たちにはわからないので、お互いに知ることが大切です」と言われたことが心に残りました。子ども連れがたまたま来ていて、韓国では自国の歴史を知ることが大切なのだと話していました。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

う韓国の人を処罰し、その多くが残酷な拷問と処刑をされたことを知りました。また、「日本軍「慰安婦」歴史館」と同じ敷地内にあるナムの家（元慰安婦だった方たちが住む生活館）を訪ねました。日本軍が各地に設置した慰安所の分布図や、元慰安所の最近の写真、そしてハルモニ（おばあさん）たちが描いた絵などたくさん貴重な資料が展示されていました。実際の慰安所内部を实物大に再現した部屋もありました。戦争とは暴力の連鎖であり、二度とこのようなことがあってはならないと思います。重い気持ちを引かず、たまに「ナムの家」を訪ねました。そこでは温かい笑顔でハルモニたちが迎えて下さり、何も言えなくなりました。どんなに忘れられない悲しい過去があっても、今を生きているハルモニたちにかえって励まされたように思います。出会い、つらい歴史を知った者として、本心に二度と戦争はしてはならないと固く心に誓い、私たちが帰るまで見送ってくれたやさしさを忘れたいです。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

う韓国の人を処罰し、その多くが残酷な拷問と処刑をされたことを知りました。また、「日本軍「慰安婦」歴史館」と同じ敷地内にあるナムの家（元慰安婦だった方たちが住む生活館）を訪ねました。日本軍が各地に設置した慰安所の分布図や、元慰安所の最近の写真、そしてハルモニ（おばあさん）たちが描いた絵などたくさん貴重な資料が展示されていました。実際の慰安所内部を实物大に再現した部屋もありました。戦争とは暴力の連鎖であり、二度とこのようなことがあってはならないと思います。重い気持ちを引かず、たまに「ナムの家」を訪ねました。そこでは温かい笑顔でハルモニたちが迎えて下さり、何も言えなくなりました。どんなに忘れられない悲しい過去があっても、今を生きているハルモニたちにかえって励まされたように思います。出会い、つらい歴史を知った者として、本心に二度と戦争はしてはならないと固く心に誓い、私たちが帰るまで見送ってくれたやさしさを忘れたいです。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

う韓国の人を処罰し、その多くが残酷な拷問と処刑をされたことを知りました。また、「日本軍「慰安婦」歴史館」と同じ敷地内にあるナムの家（元慰安婦だった方たちが住む生活館）を訪ねました。日本軍が各地に設置した慰安所の分布図や、元慰安所の最近の写真、そしてハルモニ（おばあさん）たちが描いた絵などたくさん貴重な資料が展示されていました。実際の慰安所内部を实物大に再現した部屋もありました。戦争とは暴力の連鎖であり、二度とこのようなことがあってはならないと思います。重い気持ちを引かず、たまに「ナムの家」を訪ねました。そこでは温かい笑顔でハルモニたちが迎えて下さり、何も言えなくなりました。どんなに忘れられない悲しい過去があっても、今を生きているハルモニたちにかえって励まされたように思います。出会い、つらい歴史を知った者として、本心に二度と戦争はしてはならないと固く心に誓い、私たちが帰るまで見送ってくれたやさしさを忘れたいです。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

う韓国の人を処罰し、その多くが残酷な拷問と処刑をされたことを知りました。また、「日本軍「慰安婦」歴史館」と同じ敷地内にあるナムの家（元慰安婦だった方たちが住む生活館）を訪ねました。日本軍が各地に設置した慰安所の分布図や、元慰安所の最近の写真、そしてハルモニ（おばあさん）たちが描いた絵などたくさん貴重な資料が展示されていました。実際の慰安所内部を实物大に再現した部屋もありました。戦争とは暴力の連鎖であり、二度とこのようなことがあってはならないと思います。重い気持ちを引かず、たまに「ナムの家」を訪ねました。そこでは温かい笑顔でハルモニたちが迎えて下さり、何も言えなくなりました。どんなに忘れられない悲しい過去があっても、今を生きているハルモニたちにかえって励まされたように思います。出会い、つらい歴史を知った者として、本心に二度と戦争はしてはならないと固く心に誓い、私たちが帰るまで見送ってくれたやさしさを忘れたいです。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

う韓国の人を処罰し、その多くが残酷な拷問と処刑をされたことを知りました。また、「日本軍「慰安婦」歴史館」と同じ敷地内にあるナムの家（元慰安婦だった方たちが住む生活館）を訪ねました。日本軍が各地に設置した慰安所の分布図や、元慰安所の最近の写真、そしてハルモニ（おばあさん）たちが描いた絵などたくさん貴重な資料が展示されていました。実際の慰安所内部を实物大に再現した部屋もありました。戦争とは暴力の連鎖であり、二度とこのようなことがあってはならないと思います。重い気持ちを引かず、たまに「ナムの家」を訪ねました。そこでは温かい笑顔でハルモニたちが迎えて下さり、何も言えなくなりました。どんなに忘れられない悲しい過去があっても、今を生きているハルモニたちにかえって励まされたように思います。出会い、つらい歴史を知った者として、本心に二度と戦争はしてはならないと固く心に誓い、私たちが帰るまで見送ってくれたやさしさを忘れたいです。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

2010年度 第2回平和学習会 グリーンコープ共同組織委員会主催



講師 三ツ井 崇さん
東京大学大学院
総合文化研究科 准教授
朝鮮近代史専攻
韓日民族問題学会所属

日本による韓国併合から100年となる今年、日本の朝鮮支配について歴史的に振り返る機会が多い。「日本人が何をしていたか？」を追究することの重要性が説かれているが、複雑な植民地支配の性格を「文化」と「民族」という観点から考えるとき、あわせて朝鮮（人）からの視点も必要である。



タブコル公園で「三・一独立運動」のレリーフの説明を受ける

お互いの歴史を知りましょう。そして仲良くしましょう。歴史を知らないと日本の人たちにはわからないので、お互いに知ることが大切です」と言われたことが心に残りました。子ども連れがたまたま来ていて、韓国では自国の歴史を知ることが大切なのだと話していました。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

お互いの歴史を知りましょう。そして仲良くしましょう。歴史を知らないと日本の人たちにはわからないので、お互いに知ることが大切です」と言われたことが心に残りました。子ども連れがたまたま来ていて、韓国では自国の歴史を知ることが大切なのだと話していました。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

お互いの歴史を知りましょう。そして仲良くしましょう。歴史を知らないと日本の人たちにはわからないので、お互いに知ることが大切です」と言われたことが心に残りました。子ども連れがたまたま来ていて、韓国では自国の歴史を知ることが大切なのだと話していました。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

お互いの歴史を知りましょう。そして仲良くしましょう。歴史を知らないと日本の人たちにはわからないので、お互いに知ることが大切です」と言われたことが心に残りました。子ども連れがたまたま来ていて、韓国では自国の歴史を知ることが大切なのだと話していました。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

お互いの歴史を知りましょう。そして仲良くしましょう。歴史を知らないと日本の人たちにはわからないので、お互いに知ることが大切です」と言われたことが心に残りました。子ども連れがたまたま来ていて、韓国では自国の歴史を知ることが大切なのだと話していました。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

お互いの歴史を知りましょう。そして仲良くしましょう。歴史を知らないと日本の人たちにはわからないので、お互いに知ることが大切です」と言われたことが心に残りました。子ども連れがたまたま来ていて、韓国では自国の歴史を知ることが大切なのだと話していました。西大門刑務所の訪問でも、日本に対して独立運動を行

2010年度 秋の取り組み学習会

2010年7月26日、福岡市で秋の取り組みのための学習会が開催され、約360人の組合員が参加しました。

グリーンコープの国産へのこだわりや日本の農畜産業を守るグリーンコープの食べもの運動の再確認、フードマイレージの一年間の実績、「みんなで利用キャンペーン」に取り組むことの意義について学びました。また先駆的に取り組んできた4R運動の再確認と新たに取り組む「リデュース、リユース促進法の制定運動」についての学習をしました。

各単協の理事長が、グリーンコープ運動の確かなあゆみを、秋の取り組みで一人でも多くの組合員に伝え、仲間を増やしていこうとアピールしました。



各単協理事長と会場の組合員が、一体となってアピール

グリーンコープの 食べもの運動 の進捗

1970年代の水俣病に代表される公害問題、1980年代には大量生産大量販売のために食品添加物や農薬の多用。こうした時代背景の中で母親たちは子どもたちの生命を守るために、生協を作って自分たちの求める食べもの作りへと向かいました。

1988年、グリーンコープが誕生しました。その前身生協から40年近くの年月、グリーンコープ運動のパートナーである生産者やメーカーと共に「生命を育む食べもの」作りに取り組んでいます。その成果として、耕作地の拡大や農業や畜産業の後継者の存在なく、社会的には稀有な「こと」が実現しています。一人ひとりの力は小さくてもみんなの力を合わせれば、大きな可能性を生み出すことができるのです。

この秋はこれまでの取り組みを組合員に伝え、さらに広げていくことを呼びかけます。

グリーンコープは組合員と生産者・メーカーとが助けあい 日本の「食べもの」「農業」、そして「環境」を守っています

講師 グリーンコープ連合専務理事 片岡宏明さん

日本の農業を守り広げ、安全と安心、安定を大切に

異常気象による影響、増え続ける人口、中国やインドなどの経済発展による食料事情は激変している。日本は世界最大の農産物純輸入国。日本の人口は世界の2%だが、トウモロコシや肉類の輸入量は世界一、大豆の輸入量は世界第3位だ。輸入農産物を全て国内で生産するためには農地が1,200万ha必要。しかし、1960年には607万haあった耕地面積が2009年には461万haに減少。耕地の利用率も1960年には130%を超えていたが、2007年には92.6%に減少。2008年の調査では農業従事者は約300万人。60%以上が65歳以上の高齢者。日本の農業は衰退の一途をたどっている。

こうした状況の中で、安心で安全な食べものを安定して確保していくためには、生産者やメーカーとの確かな信頼と生産や製造が安定して継続できることが大切。グリーンコープの産直は、左記の考え方で取り組んでいる。

①その生産物を誰が作っているのか②その生産物の生産方法(栽培・飼育など)が明らか③生産者とグリーンコープ(組合員ならびに事務局)との交流ができる④生産者の側からも産直提携が実感できる。④は、大きくは継続再生産できる価格の設定にある。その価格は、次にあげるように各生産物の特性によって考えられ、生産者を応援するための奨励金の制度の設置や国産の食べものを増やす取り組みも行っている。

産直青果・産直米
青果物は固定価格とし、作物ごとに生産者と相談し、再生産可能な価格に設定。産直米は、相場価格だけではなく、再生産を維持できない。生産奨励金(年間約3億5千万円)や予約の取り組みによって、安定した米作りができる。

産直たまご・産直若鶏・産直豚
一般的には相場価格。グリーンコープは固定価格に経費の半分を占める飼料の相場価格を反映している。

産直びん牛乳
飼料の高騰、需要の低迷などで、日本の酪農経営は非常に厳しい状況。離農する生産者も多い。グリーンコープは安定した酪農経営を応援するために、約50戸の生産者に生産奨励金を2008年度は総額9,800万円、2009年度は総額6,500万円届けた。

産直大豆
2009年度より醤油用大豆は全て国産丸大豆に。グリーンコープの主な大豆製品の原料大豆は、大豆畑695ha(ヤフードーム139個分)の広さとなる。

産直トマト
2009年度、985万円の生産奨励金を届けている。国産落花生(九州産落花生)消費しかかっていた熊本県の産地の再生産者に呼びかけ、2009年度4haを確保。奨励金320万円を生産者に届けた。

産直なたね
グリーンコープの呼びかけで、九州各県で92.2ha(ヤフードーム18個分)が作付けされた。2009年度40トンのなたねの種子

で2,000本の国産なたねサラダ油などを商品化することができた。

産直大豆
2009年度より醤油用大豆は全て国産丸大豆に。グリーンコープの主な大豆製品の原料大豆は、大豆畑695ha(ヤフードーム139個分)の広さとなる。

フードマイレージの成果
食料自給率の向上、環境保全に貢献し、日本の農業を守り発展させるために、グリーンコープでは他団体と共に2009年秋からフードマイレージ運動に取り組んでいる。フードマイレージ運動とは国産と外国産(輸入)のフードマイレージの差をポコ(po-co)という単位で数値化し、組合員一人ひとりが自分の利用によってどれだけ環境負荷の軽減に貢献できたか実感できる取り組み。グリーンコープ全体では、ポコ対象の商品全ての合計で4834万2101.3ポコ(2009年9月14日)2010年6月20日)。これはCO₂の排出量で換算すると1カ月約500トンのCO₂を削減したことになる。それだけ食料自給率の向上と環境保全に貢献できたといえる。



熱心に学習する組合員

グリーンコープは組合員の思いを実現し「安心で安全な商品」を数多く開発し適正な価格で供給してきた。昨今の厳しい不況下、一人でも多くの組合員が利用しやすいように、できるだけ「価格」を下げることに取り組んでいる。各メーカーや生産者は、グリーンコープの呼びかけに応じて製造工程や原料などを細かく見直し、工夫を凝らし値下げを実現。カタログGREEN8号から「みんなで利用価格」がスタート。組合員の利用結果が生産者・メーカーの経営の安定に繋がっており、それは更に利用しやすい商品価格に繋がる。みんなの力で、厳しい状況を乗り越えよう。

この秋、多くの組合員と生産者

自信をもちつてグリーンコープを伝えたい

グリーンコープの 4R 運動

グリーンコープでは、食べものを大切にすることは環境を守ることもであると、さまざまな環境保全活動に取り組んできました。その一つが「4R運動」です。グリーンコープの「4R」とは、一般的に認知されている「3R」＝リデュース（減量する）・リユース（再利用する）・リサイクル（再生利用する）に、リフュース（断る）を加えたものです。

2010年秋、これまで共にびんリユースに取り組んできた「びん再使用ネットワーク」と、「リデュース、リユース促進法の制定」のための署名活動を行います。法制化により、容器や包材などのごみを減らし、環境問題を解決する大きな一歩につながります。

グリーンコープの 4R 運動の進捗について

2000年、「グリーンコープの環境政策」を策定。以来、4Rの実践に取り組んできました。環境政策と同時に「グリーンコープの容器包装ガイドライン」を定め、包材の総量削減にも取り組まれました。

4Rの具体的な取り組みとしては、1996年からびんのリユースに取り組みました。2003年にはびん牛乳が登場、牛乳びんの回収率はほぼ100%に達しています（12面を参照）。1998年、食品トレーを回収しトレーにリサイクルする「トレー to トレー」を実現。1999年には、たまごのモウルトパックのリサイクルを開始しました。また、「リデュース」を意識し、飲料用のペットボトルの不使用などプラスチックの総量を減らす努力をし、店舗ではレジ袋持参運動を積極的に展開してきました。しかし、仕分け袋の回収・再生についてはリサイクルまでには至らず、袋の減容



グリーンコープ 組織委員長 大橋 由美子さん

化、肉薄化に取り組んできました。

こうした社会に先駆けた取り組みが認められ、2006年、第1回3R推進環境大臣賞、地域の連携共同部門最優秀賞を、「びん再使用ネットワーク」の一員として、受賞しました。

2010年6月、組合員の念願だった仕分け袋のリサイクル「袋 to 袋」がスタートしました。リサイクルをするためには、ラベルやラベルの接着剤、印刷部分を取り除くことや、汚れやごみを落とすという作業が必要になります。この「ひと手間」がこの取り組みの成功につながります。組合員一人ひとりが協力して、「袋 to 袋」をすすめていきましょう。

リデュース、リユース促進法の制定に向けて



びん再使用ネットワーク 代表幹事 中村 秀次さん

容器リサイクル法の問題点

1995年、家庭ごみの6割を占める容器包装のリサイクルをすすめるため、「容器包装リサイクル法（以下、容リ法）」が制定された。この法律により、消費者には「分別排出」、自治体には「分別収集・選別保管」、容器包装を利用・製造する事業者には「再商品化」の役割分担が定められた。これによりリサイクルはすすんだものの、ごみの排出

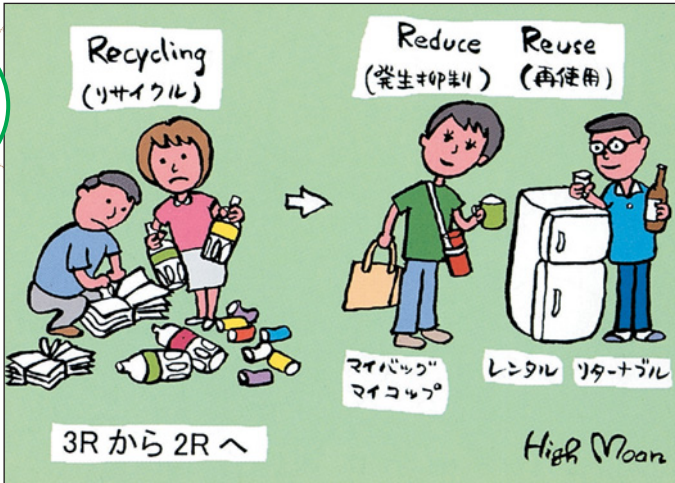
量は一向に減っていない。これは、容リ法の不備によるものだ。容リ法では、リサイクルで最もお金のかかる収集・選別保管を自治体が税金を使い行うことになっている。リサイクルはすすんでも、容器包装を選ぶ事業者には「ごみの排出量を減らそう」と働きかける効果が弱い。また、費用の多くが税負担ということになり、容器包装ごみをリサイクルに出す量が少ない消費者ほど負担が大きくなるという、不公平な制度と言える。

法律に拡大生産者責任を

容リ法の改正に向けた市民案として、「拡大生産者責任」の考えを基にした。これは、容リ法の不備によるもの。容リ法では、リサイクルで最もお金のかかる収集・選別保管を自治体が税金を使い行うことになっている。リサイクルはすすんでも、容器包装を選ぶ事業者には「ごみの排出量を減らそう」と働きかける効果が弱い。また、費用の多くが税負担ということになり、容器包装ごみをリサイクルに出す量が少ない消費者ほど負担が大きくなるという、不公平な制度と言える。

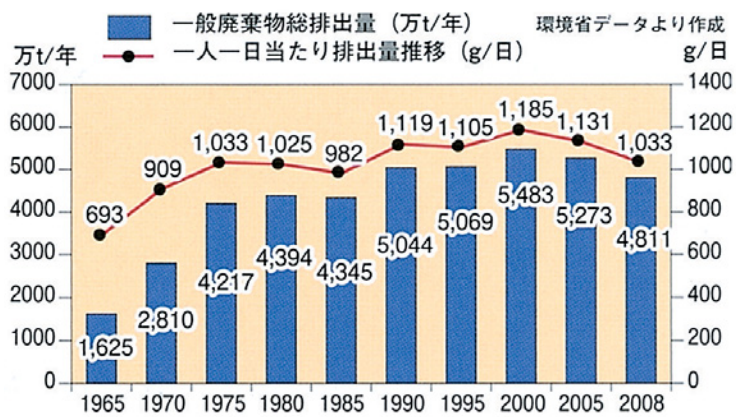
盛り込むことをめざしている。3Rから2Rへ

ごみ排出量を減らすには、リデュース、リユース、リサイクルの優先順位を守ることが大切だ。現在の容リ法ではリサイクルだけがすすみ、ごみもCO₂も減ることはない。容リ法を、リデュース、リユースを促進する法律に作り替え、ごみを減らし持続可能な社会を実現するための法律にするために、この秋、請願署名を行う。与党の民主党はこの法改正を前向きに検討している。署名活動を通じ市民の声をもちとつと高め、このうねりを大きなものにしていきたい。



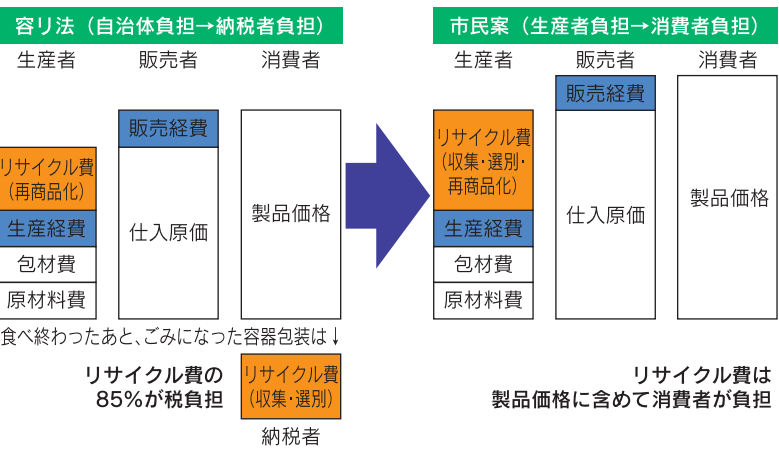
パンフレット「2Rを促進する署名運動に参加してください！」より

ごみ排出量の推移



この20年以上、連続して国民1人あたり、「毎日1kg超のごみ」が出し続けられています。2008年のごみ量は、国レベルでは約20年ぶりに5000万t/年を下回りましたが、リーマンショックの影響によるイレギュラーな数値と考えられるため、今後のリバウンドへの注視が必要です。

現在の容器リサイクル法と市民改正案



2Rを促進する署名運動に参加してください!

2010年夏 第15回青少年ネグロス体験ツアー 7月26日~8月2日

グリーンコープのすべての取り組みには四つの共生(自然と人・南と北・女と男・人と人)の理念が貫かれています。その中の「南と北の共生」の取り組みの二環として1991年にはじまった青少年ネグロス体験ツアー。15回目の今年も8人(ふくおか2人、さが1人、(長崎)1人、おおい4人)の高校生が参加しました。参加した子どもたちの報告を紹介します。



ネグロスでの出会いが自分を成長させてくれた

今回のネグロスツアーに参加したきっかけは、一度ネグロスに行ったことがある母親からの勧めでした。私は19歳ですが、一度、高校を退学して一年遅れの高校生をやっています。ネグロスツアーに参加できるのは高校生のみ、しかも、今年はおおいたが対象でした。もし退学して一年遅れていなければこのツアーに参加できなかったもので、退学したことはとてもよかったです。そう思うほどネグロスに行つたことはよい人生経験になりました。



これからもずっと友だちでいたい

グリーンコープ生協おおい 奥田 一平さん(高3)

て話したことでした。ネグロスの子どもたちは普段の明るさからは想像できないような辛い境遇の人がたくさんいて、自分の不幸なんてチンケなものに思ってしまうほどでした。自分がこんなにも恵まれた環境に生きていることを思い知らされました。ネグロスの子どもたちは素直に月をきれいと思うことができ、家族をとて大切にしています。それは日本にはあまりない感情だと思っています。みんなの話を聞いて苦しいのは自分だけじゃない、みんなが苦しい、だから辛いことがあっても頑張っていける自信が持てました。今、ネグロスの子どもとネットを通じて交流を続けています。これからもずっと友だちでいたいと思います。

私は、バランゴンバナナがどのようにして日本に届くのか、どんな人が作っているのか、どんな暮らしをしているのかに興味があり、このツアーに応募しました。7月27日、バコロド空港でネグロスのメンバーと対面し、ジーブニー(細長くても向かいあわせて座る車)に乗りました。私たちはすごく緊張していたし、セミナーハウスの天井や壁を埋め尽くす蛾を見て一週間もつか不安になりました。しかし、ネグロスのメンバーがみんな明るく接してくれたので、あつという間に打ち解けることができました。セミナーハウスではネグロスのメンバーにフィリピンの歴史の劇をしてもらいました。とても悲惨な歴史を演じるのは辛いだろうに、みんなの一生懸命で真剣な劇を見てとても感動しました。

たくさんのワークショップ すべてに意味があった



グリーンコープ生協おおい 藤本 麻耶さん(高3)

た。7月29日、ユボ村を散策し、バナナやココナツ、ランブータン、コーヒの木などを教えてもらいました。ユボ村を出てビーチに行き、180度に広がる水平線と美しい海を見て感動しました。今回数えきれないくらいたくさんワークショップをしましたが、すべてに意味がありました。心に残るワークショップが2つあったので紹介します。1つ目は、それぞれが生まれ変わったら何になりたいかを紙に書き、自分が繋がりたいと思う人と順番に紐で繋ぐというものです。最終的にみんなが一つの紐で繋がった時、何とも言えない安心感に包まれました。2つ目は、それぞれが自分の辛いことを打ち明けるものでした。みんなが辛いことを抱えていると知り、これからも自分に辛いことがあってもみんなの話を聞いてあげたいな話を思っていました。7月30日の朝食時、ジャーニーが作詞作曲した歌を聴きました。それは、「生まれ変わったら何になりたいか」というワークショップを基にしたものでした。私たちは楽器などを使って曲の練習をしたり、劇を作ったりしました。7月31日のBGA総会で、その劇と歌を披露しました。8月1日、ネグロスのメンバーとお別れする時はとても辛かったです。今回のツアーでたくさんのことを学び、一生の思い出を作ることができました。これから最も生かしていきたいのは、ネグロスのメンバーの人柄です。男性はみんな紳士的で、女性をよく心配りをして話しかけてくれました。私もそんな人間になろうと思います。



BGA(バランゴンバナナ生産者協会)総会で歌や劇を披露した

私にとって、この体験ツアーは驚きと楽しい毎日でした。その中でも一番印象に残っていることは、三日目に行った民泊村のことです。村に行き、おやつに「ゆでバナナ」を食べました。さつま芋のような感じでおいしかったです。翌朝、村を散歩しバナナの木を見に行きました。バナナの木が斜面に生えていて、バナナを採ってしまった後は、その木を倒してしまいました。また、バナナは「地下茎」の植物で、みんなが芽を出すことも知り驚

生活や文化の違いを学んだ

グリーンコープ生協ふくおか 塩塚 彩香さん(高2)



きました。BGA総会に参加し、みんなで作った劇を演じました。日本の高校生の生活をテーマに、いじめがあることや、いつも携帯を持っていて、電車の中でもしているようすを表現しました。ネグロスの子はフィリピンの社会問題のことを演じて、乱闘やタバコ、シンナーなどのシーンを見て、どの国も同じような問題があるなと思いました。今回参加して、生活や文化の違いを学ぶことができ、本当に貴重な経験をしたと思います。

口蹄疫による困難を共に乗り越えよう!

綾豚会からのお礼状

グリーンコープの組合員の皆様へ
 今回、宮崎県で発生した口蹄疫に関しましてグリーンコープの皆様より励ましの応援メッセージ、義援金、消毒資材等沢山送って頂き本当にありがとうございました。我々綾豚会会員も元気と勇気をいただきました。県内では牛、豚合わせて28万9,000頭の家畜が殺処分されました。我々畜産を行っている者にとって、愛する家畜が殺処分されるのは、筆舌につくしがたい事です。綾豚会ではメンバーの1人が子豚を含めて、5,129頭殺処分となり改めて口蹄疫の恐ろしさを実感しました。他の会員も1ヵ月から2ヵ月以上も出荷が出来ない状況となり、グリーンコープの皆様にご迷惑をおかけ致しました。グリーンコープの組合員の方に恩返しするなら、元通りに出荷が戻り、今までのように安心、安全でおいしい豚肉作りに励むしかないと思っています。殺処分された家畜のためにも、綾豚会は再生を誓います。宮崎県の非常事態宣言は7月27日に全面解除になりましたが、気を引き締めて再生に頑張ります。長い間支援していただき本当にありがとうございました。我々もグリーンコープの組合員さんの期待にそうよう一致団結して努力します。今後共よろしくお願致します。

農事組合法人 綾豚会 代表理事 押田 明

組合員の思いを綾豚会に

緊急カンパありがとう

総額 26,476,068円

- ・カタログGREEN 組合員 38,916人 24,194,700円
- ・単協独自 2,281,368円



メッセージと義援金を押田代表理事に手渡す田中代表理事

2010年4月に宮崎県で発生した口蹄疫は、宮崎県全域に甚大な被害を及ぼしました。グリーンコープの産直豚の生産者グループ綾豚会も例外ではなく、川南町にある農場の一つは全頭殺処分となるなど大きな打撃を受けました。

2010年8月3日、グリーンコープ共同代表理事 田中裕子さん、グリーンコープ生協みやざき理事長杉尾紀美子さんが組合員から寄せられた義援金や応援メッセージを綾豚会に届けました。また、グリーンコープの生産者・メーカーの会、グリーンクラブも副会長の高橋一正さんが義援金を届けました。

豚のおみごとへ

肉体的にも、精神的にも、経済的にもつらい日々を過ごされていることと思います。今までも、みなさん組合員に「おいしい豚肉を届けるために」たくさん努力をいただいていることを知っていますので、これからも負けず、やめることなく、よろしくお願致します。そのために、私たちができることは、頑張らせていただきます。

産直豚のおみごとへ

毎日、ニュースを見ながら「ただ、終息することを願っています。みなさん、現場にいる方々、努力や心配は私には分かることはできません。でも、そんな物どかになりたくない。精神百倍はありませぬ。本当に、頑張りますが、フルコフでみなさんの豚肉を届けることしか、応援できませんが、この時期も何とか乗り切ってください。これからも、おいしい、豚肉をぜひぜひ届けて下さい。安全な豚肉大好きな4児の母より」

応援メッセージの一部

綾豚会 遠藤 威宣さん

今回、言葉に尽くせないほどの苦しい思いをしましたが、その中で、助けあうことの大切さをほんとうに学ばせてもらいました。一人の力ではどうにもできない。この経験を無駄にすまいと地域では新しい畜産のあり方を若い者が中心になって話しあっています。これまで以上に、物語のある豚肉を組合員の皆さんに届けたいと思います。

7月26日、宮崎県全体の口蹄疫に関する移動搬出制限が解除され、4月から続いてきた口蹄疫もやっと終息に向かいつつあります。しかし、宮崎県では、約30万頭の牛や豚が殺処分され、その中には綾豚会の会員である遠藤威宣さんの農場も含まれています。また、他の会員も移動・搬出制限のため出荷できない状況が続きました。経済的にも精神的にも筆舌に尽くせないダメージを受けています。

こうした状況を受け、グリーンコープでは、綾豚会を応援するために、各単協が緊急カンパや応援メッセージを取り組みました。緊急カンパは26,476,068円集まり、これまで綾豚会に届けられたメッセージは約2,900通です。贈呈式は綾町にある綾豚会事務所で代表理事の押田明さんをはじめ5人のメンバーと綾町農協からの参加で行われました。田中さん、杉尾さんから「組合員はみな今回の問題に心を痛めています。これからも産直豚の生産を続けていだけるよう応援していきまます」という挨拶と共に、義援金の目録と応援メッセージが渡

され、押田さんからはお礼の挨拶がありました。その後、綾町役場を訪問。前田穂町長からはグリーンコープの支援に感謝の言葉が述べられました。生産者間の行き来は現在でも自主規制しているため、遠藤さんには、遠藤さんの農場近くの別会場で会い、義援金と応援メッセージを届けました。同席した妻の順子さんは、「殺処分はほんとうに苦しかった。農場から一歩も外に出られない状況で、組合員さんたちのメッセージはうれしかった。特に子どもさんからのメッセージは心が温まりました」と目をうるませました。

「川南町では、各農場が一頭ずつ牛や豚を飼い、口蹄疫の感染がないことを確認し、飼育を再開する予定です」と遠藤さんは、再生に向けての段取りを話しました。

精一杯の支援を

綾豚会とはグリーンコープの前身生協の時代から30年近く、産直の関係が続いています。10年ほど前にも宮崎県で口蹄疫が発生し、グリーンコープでは支援に取り組みしました。今回も口蹄疫での生産者の苦境を組合員に伝えたと、産直豚の利用は、前年比110%に伸びました。組合員の応援は商品の利用にも結びついています。また、グリーンコープの酢の製造メーカーからは、殺菌・消毒用の大量の酢が、綾豚会をはじめ、他県の産直畜産生産者にも届けられました。



美しい地球を残すために

私たちは今まで便利さばかりを追い求めてきました。でもそのために失ったものもたくさんあります。何でも簡単にできることは必ずしもいいことばかりではありません。たくさん電気を使う私たちの生活のせいで地球が汚れてしまっています。電気を作っている原子力発電所からは「放射能」という危険なゴミがたくさんです。でもそれは、この地球上のどこにも捨て場がありません。目に見えないし、においもしない。一度できたらずっと消えることはありません。このゴミをリサイクルして、もう一度使うための工場も作られましたが、捨て場のない「放射能」がたくさん出て、結局それらは海や空にまき散らされたり、地下に捨てられようとしています。私たちはこれ以上、核のゴミを未来の子どもたちに押し付けることはできません。みどりの地球をみどりのままで…。

参考資料：創作童話絵本 「オジロワシの森」 作・絵 はらだゆうこ 子ども達に再処理工場を語り伝える会

生活クラブ生協埼玉にある「子ども達に再処理工場を語り伝える会」の皆さんが絵本作家のはらだゆうこさんと共同で作成された創作童話です。現在市販に向けて準備中です。絵本の内容は、六ヶ所再処理工場や原子力発電所などの問題が分かりやすく書かれており、一人でも多くの方に知ってほしいということで作成されました。

グリーンコープ共同体組織委員会

投稿募集中

●私の好きなグリーンコープ商品 400字程度

●お切 毎月末

●住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(5000円分)進呈。

●住所・氏名などの組合員の個人情報 報は本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561 福岡市博多区博多駅前3-3-6 博多7F 生活クラブ生協福岡支店(グリーンコープ福岡)宛

FAX 092-481-7876 Eメールアドレス: hiko@greencoop.or.jp

母親たちの生活力を取りもどそう！



いま地域を考える

No.205

ママデイの「みんなさんぽ」。勝盛公園に出掛けて、みんなでお弁当をいただきます



ママデイでの子どもたちの様子

福岡県飯塚市に、子育て中の母親たちに、昔から伝わる子育てや生活の知恵を伝えようと活動している「筑豊助産師ネット」という助産師グループがあります。

メンバーの稲富さんが開院している助産院「菜の花助産院」を訪ねて、代表の重久さん、稲富さん、梶嶋さん（共にグリーンコープ生協ふくおか組合員）に活動のようすを聞きました。

筑豊助産師ネット

2002年、社団法人日本助産師会の福岡県の地区会で、望まない妊娠の低年齢化や多発する性感染症が報告された。それを聞いた筑豊地区の助産師が「子どもたちにいのちの大切さを伝えよう」と有志を募り、「子どもの未来を考える会」を4人で立ち上げた。メンバーの子どもが通う幼稚園に、「いのちの話をさせてほしい」と頼み、「いのちの授業」をしたのが活動のはじまりだった。すでに評判を呼び地域の幼稚園や保育園、小・中・高校から依頼を受けるようになった。年に数回だった授業は、多い年では50回にも及ぶようになり、現在も活動は続いている。

2006年から2年間、グリーンコープ福祉活動組合員基金の助成を受け活動を行っていた。現在、福岡県地域福祉財団からの助成を受けて「筑豊助産師

地域への活動の広がり

助産師の仕事で、赤ちゃん訪問や健診での相談ではさまざまな悩みが飛び込んできた。「赤ちゃんが泣きやまなくて、ご飯が食べられず、家事もできなかった」と悩む母親の多くは、同時進行で2つ以上のことができないことにメンバーは気付いた。「わが子と、どう接したらいかがいかわからない」「遊んであげたいけど遊び方が分からない」。そんな悩みを抱える母親の赤ちゃん

「ママデイ」に改称し活動している。ネット」に改称し活動している。地域への活動の広がりを。また、「いのちの授業」の中では、子どもたちの身体をつくる「食」についての話をしている。梶嶋さんは「食の大切さを、普段料理をするお母さんたちに伝えたい」と考えた。そこで「地域の中で、親同士が一緒に子育てをしながら生きていくための力（生活力）を身につけてもらえるような活動をしよう」と、ママデイサービス（以下ママデイ）の活動を2005年にスタートさせた。

長屋のこいのこい

ママデイは、菜の花助産院に隣設している菜の花ハウスを借りて活動している。2005年からはじめたママデイは、4月から春コースと9月から秋コースがあり、3カ月間、6回で終了する。それぞれ未就学児を持つ親子14組を募集している。

午前中は手遊び・歌遊びをしながら親子でふれあい、



左から梶嶋陽子さん、稲富博美さん、重久優子さん

その後はテーマを決めて、一人ひとり自分の出産や子育てで感じたことなどについて思いを語りあう。

昼食は、当番の3〜4人が調理指導者に和食の基本を習いながら作る。残った母親たちは一緒に協力しながら当番の人の子どもも見守る。準備から食事、片付けまでをみんなで協力しあ

2010年7月の組合員数

403554人

(7/27現在)

リユースリサイクルデータ

2010年6月分

牛乳びん 回収本数 821,709本 回収率 99.9% (5月16日～6月12日回収分)	リユースびん 回収本数 218,208本 回収率 64.4%
トレー 回収重量 10,918kg 回収率 56.5%	モールドパック 回収重量 34,490kg 回収率 109.1%

フードマイレージ
2010年7月までに組合員の利用によってたまったのは

53,775,351.2

CO₂に換算して5,377トン削減したことになります

アジア民衆基金
2010年7月までに組合員の利用によってたまったのは

10,583,028円

放射能汚染測定結果報告(201)

2010年6月

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

	検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計 ベクレル/kg
※	梅	大分県	ND	ND	ND
※	煎茶	福岡県	ND	ND	ND
※	はと麦ミックス茶	日本・中国・インド	ND	ND	ND
※	はぶ茶	インド	ND	ND	ND

重久さんたちは、「いのちと食」に関することや、ママデイの体験と講話の内容などを、もっとたくさんの子育て中の母親たちに伝えたいと、社会福祉協議会などに働きかけ、子育てセミナーの講座の依頼を受けるようになった。

講座のテーマは「いのちと食の話」はもとより、「女性の身体について更年期を考える話」など、身体と食が深くつながっている話をする。「布ナプキン」のテーマでは布のよさを伝え、ごみを増やさない工夫、「重曹でできる掃除方法」、環境を考えた「ダンボールコンポスト」など、家庭でできる環境にやさしい提案を話

ママデイはこれまで198人の親子が参加してきた。「ママデイを通して、何か一つでも子育てのきっかけを掴んでもらえればいいですね」と話す稲富さんの眼

筑豊助産師ネットはさまざまな活動を通して「食」や「物」全てのものに関して無駄を減らし、手間暇を惜しまないでほしい」と語りかけてきた。人と人が豊かに関わる体験をすることで、言葉で伝わらないものが心に刻まれる。

重久さんは、「私たちが大事にしたいと思ってることや興味のあることが形になって実現している。これからはいろいろな人たちに活動を知ってもらって、家事も育児も手間をかけることを楽しみながら生活してほしい」と語る。助産師ネットは、いのちの誕生の立会いから親と子の成長まで、優しく見守りながら活動を

続けている。